



今月の農家さん

協力して地域の農地を守る

守山市木浜町

秋山 新治さん (66才)



地元の農家の皆さんの理解と協力を得て、今年1月に木浜営農組合を法人化し、理事の一人として活躍する秋山さん。組合員41人からおよそ60haの農地を集積し、米・麦・大豆の土地利用型農業と農地の保全に努めています。

「農業者の高齢化が進む中、農地を守るためにJAや地域の担い手、県の普及員などと協力するだけでなく、地域の中でも協力し合う事が大切です」と秋山さん。

法人化に向けて、書類作成や組合員さんへ

の説明など多くの仕事があり、それが一段落してから7月の西日本豪雨や、8月の記録的猛暑で大豆の収量に大きな影響が出るなど予想外の苦労をされています。

最後に秋山さんは「営農組合の施設や機械の整備にも取り組み、事業を安定して受け継いでもらえる人材を育てていく事が今の目標です。営農組合と地域の担い手が共存・共栄し、先人たちが守ってこられた美しい田を子どもたちに引き継ぎたいです」と抱負を語られました。

営農情報

◆農作業事故について

毎年、農作業による事故が多く発生しています。

平成29年に滋賀県で発生した農作業事故は40件でした。その内訳は、死亡3件、重傷18件、軽傷10件、物損7件となっています。

作業別では、草刈による事故が11件で最も多く、次いで刈取・脱穀の8件です。

機械別では、コンバイン、草刈機、トラクターの順に多く事故が発生しています。

	人身事故				物損事故	合計
	軽傷	重症	死亡	不明		
耕耘・代かき	0	2	0	1	1	4
草刈	4	4	0	1	2	11
刈取・脱穀	4	2	0	0	2	8
移動・運搬	0	0	1	0	2	3
乾燥・調整	0	1	1	0	0	2
肥料・農薬散布	0	1	0	0	0	1
その他の機械・道具	2	8	1	0	0	11
合計	10	18	3	2	7	40

(滋賀県公式ホームページ…平成29年農作業事故実態調査結果より抜粋)

◆草刈機の使用時は特に注意

草刈機を使用する際は、斜面に注意し、不安定な姿勢にならないよう気を付けましょう。

毎年、傾斜面からの転落や不安定な姿勢によるアキレス腱の損傷などが多く見られます。

傾斜面では常に安定した姿勢を保つように心がけ、スパイクのついた靴を履く、小段を設置して足場を確保するなどの対策をする事が重要です。

また、集団で草刈機を使用する場合、作業者同士の距離が近いと、振り向きざまに足を切るなど思わぬ怪我をする恐れがあります。十分に距離をとり、安全に作業を行います。

○草刈機使用時の服装

